

ニューノーマル時代を見据えた将来の金融サービスに関する共同研究

ひとが投資をするとはどういうことか

「自己形成としての投資」に関する概念分析と価値提案

～個人の価値実現をサポートする金融サービスのあり方を哲学的見地から検討～

京都大学大学院 文学研究科哲学専修 教授
京都大学 成長戦略本部 特定助教
株式会社お金のデザイン・お金のデザイン研究所 取締役副会長/ファウンダー

2025年3月

出口康夫
渡邊一弘
廣瀬朋由

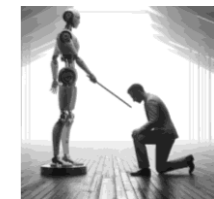
1. 本研究の趣旨

投資や資産形成を経済活動にとどまらない人間の営みとして理解するためには、自己と“しあわせ”に関する哲学的考察が必要なのではないか

- 第一期共同研究 理論 (2021/4 – 2023/3)
 - ✓ 資産形成とは一人ひとりの『しあわせ』を実現する行為
 - 資産形成を「お金」という狭義の経済的価値から、「しあわせ」という包括的な価値として捉える
 - ✓ 「しあわせ」の構成要素を定量的に可視化したライフ・インテグレーター尺度の提案
 - 「わたし」的価値と「われわれ」的価値という2つのタイプに区別され、これらをさらに「リスク」「充実感」「人生観」「社会統合」という4つのファクターに分解することによって、一人ひとりがそれぞれのファクターをどの程度重視するかを考える
 - 自分の「しあわせ」の内部構造の視覚化
- 第二期共同研究 実践 (2023/4 – 2025/3)
 - ✓ 人が投資をするとはどういうことか
 - 作業課題を通じて個人と不可離脱関係にある社会が、有形無形の資産を媒介として個人に働きかけ合う論理と、両者が価値的に共存し合うための規範についての考察
 - ✓ 多面的な価値（「しあわせ」）の認識からひとつの行為実践へ駆動していく仕組みを明らかにする
 - ✓ 個人が主体的な経済的意思決定をおこない、その豊かな果実を享受するための指針の提案
- **アカデミアと運用会社の責任**
 - ✓ **アカデミア**：社会的な文脈の中で、認識と行為の相互作用の問題を考察
 - ✓ **運用会社**： 価値観と行為の橋渡しの実践

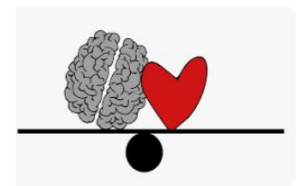
2. ゴール投資のパラドクス

- 時間割引率 (time discounting) の作用
 - ✓ 当初の目標と現在の状況との大きなギャップの顕在化が投資継続の意思と自信は失わせる
 - ✓ 一方で、目標の達成が自己目的化してしまうと、現在が将来の奴隷となり幸福な人生を妨げる



3. 納得も得心もできる資産形成とは

- 「思い通りにならないこともある」という現実を、頭だけでなく直感のレベルでも受け止める
- 資産形成は自己陶冶の経験となり、投資行為が人生をより豊かにする成長プロセスとなる



4. スナップショットをつなぐストーリー

- ライフ・インテグレーター尺度は、ひとの「しあわせ」感について、特定時点での「現状」と「理想」をスナップショットとして可視化し、そのギャップを埋めるための行動を促すツール
- 離散的なスナップショットを接続し、それらを連続的かつ統合的に捉える道具としてのストーリー・ナラティブ（物語）を身体で理解し、瞬間的な判断を求められる現実を乗り越える



資産形成と自己形成との循環的關係

1. ひとが何かを「形成する」 / 「つくる」意味

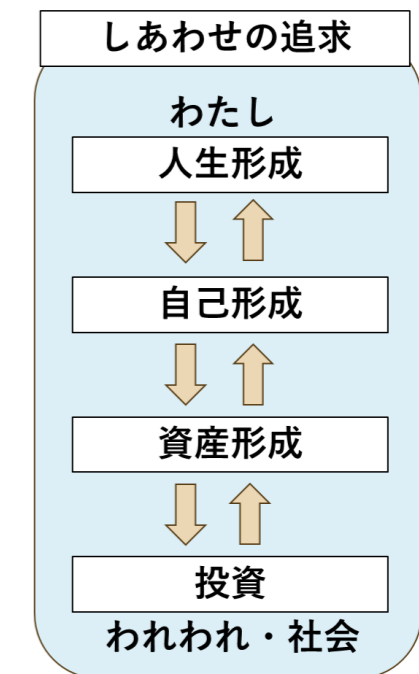
- 資産形成という「行為」と「行為過程」による自己形成への影響
- 自己形成と資産形成の循環的接続性



2. 「作られるものが作るものを作る」

『西田幾太郎講演集』（岩波文庫） 「歴史的な身体（昭和12年）」

- 資産形成と自己形成の両義性
「ナラティブを媒介とした資産と主体の相互制作」の連続的な循環
- 資産には「わたしの物語・ナラティブ」が埋め込まれると同時に、社会から受け継いだ価値観や知識も不可分に結びつき、自分の行為や選択の可能性を規定し、人生の方向性を再構築する基盤となる
- 社会との共生的な自我（Self-as-WE）に根差した資産形成



3. 投資と「ゴール」の関係

- 資産形成行為の目的は、外部化（成果）と内部化（過程）の二つの視点で捉える
- キネシス（成果）とエネルギー（過程）の視点
- 人間の生の目的（テロス）は、生涯の終局にあるのではなく、「生き方」として継続的に実現されるもの



自己形成へのナラティブ・セルフ・アプローチ

1. 直感的に把握できる自己像～感性の行為

- 「理性は情念の奴隷である」 デイヴィッド・ヒューム
理性は目的と手段の関係を教えるが、行為を駆動できるのは情念のみ
- 自己物語は判断を自動化し、行動の習慣化を促し、結果として資産形成に必要な直感的な自己理解をもたらす
- 自分の価値観や生き方を反映したストーリーを形成することで、資産形成が単なる計画ではなく、人生の一部として位置づけられる



2. ナラティブ・セルフ（自己物語）～理性の行為

- 言葉による自己理解と自己表現
 - ✓ 感情や欲望に結びついている思考（理性）のモードとしてのナラティブ思考
 - ✓ 自己固有の世界観・経験や価値観を統合した「わたし」の物語
 - ✓ 「わたし」の自己理解は、共同体の歴史や伝統（社会）に依存している



3. 資産形成を支えるナラティブ

- 資産形成に対する「哲学的」ナラティブは「気づき」として機能し、投資を単なる手段ではなく、自分自身の「しあわせ」や価値観と結びつけ、納得できるお金との付き合い方の筋道をつける



自己形成へのナラティブ・セルフ・アプローチ

4. ライフ・インテグレーター尺度の活用

第一期共同研究開発(2021/4~2023/3)

- 「わたし」型と「われわれ」型という2つのタイプに区別
- これらを「リスク」「充実感」「人生観」「社会統合」という4つの分野に分ける
- 上記2タイプと4つの分野のそれぞれに“現状”と“理想”の在り方の2項目を掛け合わせた16通りの質問
- 「しあわせ」の「現状」と「理想」の幸福感を可視化し、その価値観の変化を捉え行動を見直す
- 価値観の遷移を統合的に捉える道具としてのストーリー/ナラティブ（物語）
 - ✓ ライフ・インテグレーター尺度による数値や構造で構成される幸福観を骨格模型として理解する
 - ✓ 骨格に肉付け（トルソー [=胴体] 化）をするのがナラティブ
 - ✓ ナラティブは、幸福観に感情的な輪郭と直感的な理解を与える

「わたし」型しあわせ



「われわれ」型しあわせ



しあわせの骨格



価値の骨組み

しあわせの輪郭



価値の自己像

5. ナラティブの作成

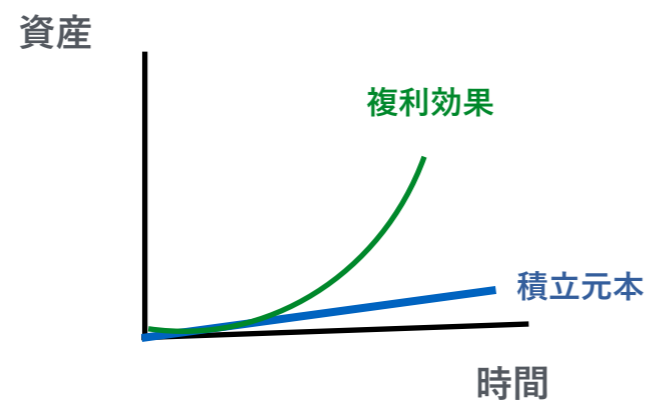
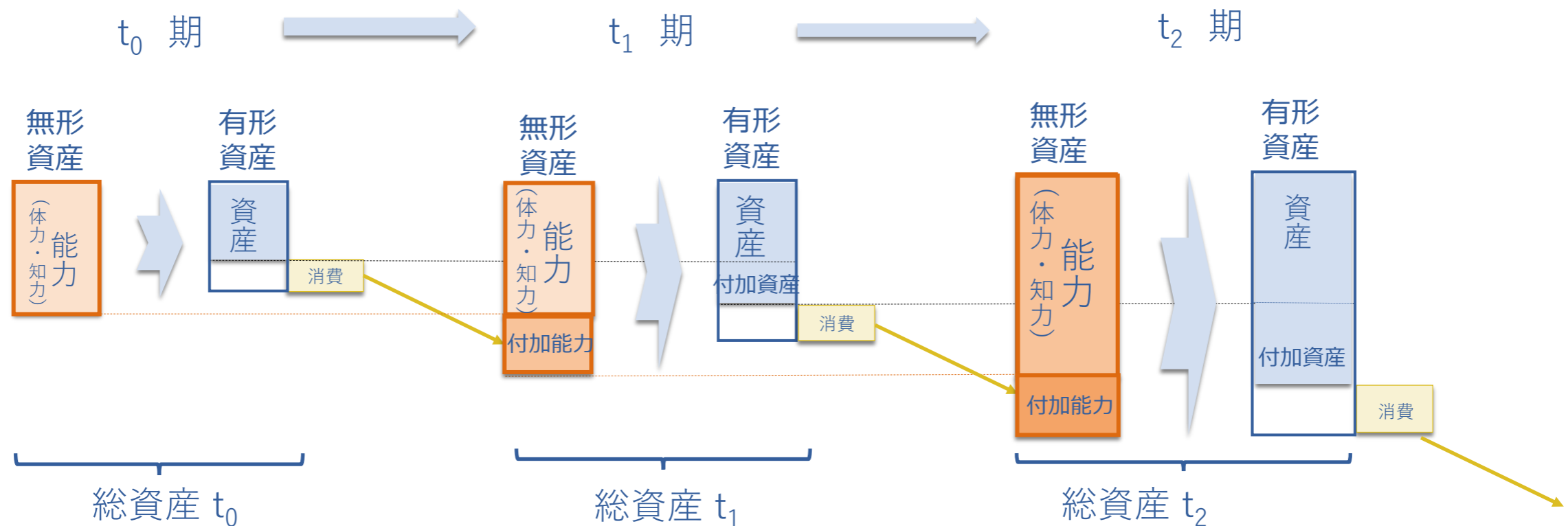
- 生成AI (ChatGPT) の活用法
 - ✓ 資産形成に役立つ人物像を生成AIで作成
 - ✓ 回答パターンに応じた幸福観を表す視覚的なシンボルを加える
- 生成AI (ChatGPT) の活用の意義・注意点
 - ✓ 恣意性を抑えつつ、集合知に基づく広がりのあるナラティブを生み出せる
 - ✓ 他者の視点を適度に取り入れつつ、自分自身のストーリーの再構築
 - ✓ 生成AIにより作成された文章には違和感が伴うこともあり、人間によるレビューは必要

The screenshot displays a user's narrative profile and investment recommendations. On the left, the 'あなたの人物' (Your Profile) section describes a person who is balanced and resilient, with a pie chart showing a 50% allocation to GP (Global) and 50% to IHP (Income and Health Protection). Below this, the 'あなたを表すひらがな単語' (Hiragana words representing you) and 'あなたを表す色' (Color representing you) are shown. The 'あなたの標準ポートフォリオとカスタマイズ案' (Your Standard Portfolio and Customization Case) section shows a comparison between a standard portfolio (50% GP, 50% IHP) and a customized portfolio (15% GP, 35% IHP, 45% GP Customization). The 'あなたの回答に基づいた推奨ポートフォリオ' (Recommended Portfolio based on your answers) section shows a pie chart with 15% GP, 35% IHP, and 50% IHP, and a table of investment options: Strive (Challenge), Growth Strategy, Care (Care), and Stable Strategy.

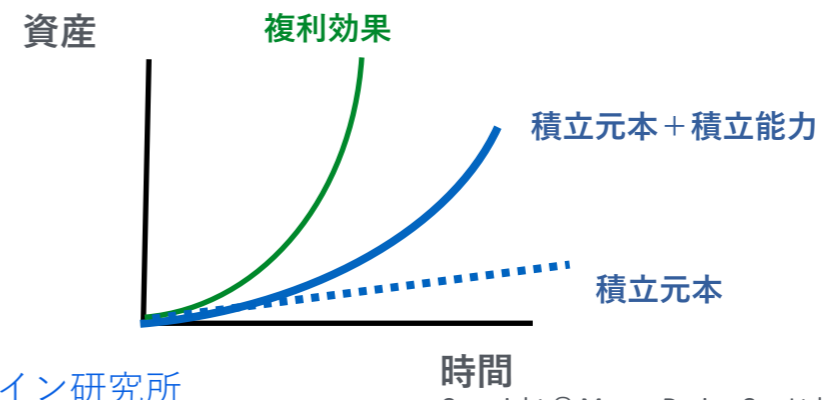
投資の社会的性格と「よきしあわせ」

1. 現在の自己への投資

- 資金の活用を将来のより適したタイミングへと部分的に先送りし、自分と社会が自然に成長するのに合わせて、取り置いた資金を育てる
- 自己投資を補完する“常に変化する外部市場”へ配分する投資
- 自己の成長を客観的に評価する基準となる有価証券市場



お金のデザイン研究所



投資の社会的性格と「よきしあわせ」

2. 投資は市場の基盤形成システムに依存する行為

- 有価証券への投資は、自分一人では完結せず、他者との関係の中で成り立つ社会的行為
 - ✓ 公正性・効率性・信頼性・持続性を担保する市場の基盤システムの利用を前提
- 投資は自分の資金・行為者性や能力の一部をマルチエージェント・システムに委譲する（entrust）行為
- 金融資産は「つねにすでに（always-already）」社会的性格を内包している



3. “Self-as-WE”と「よきしあわせ」

- 「わたし」の投資は、「わたし」だけでなく、経済や社会の「われわれ」の潜在的に社会性を帯びる行為
- 社会的責任や共通性への考慮することは、「余剰負担」か「余剰利益」か
- 「わたしのなかのわれわれ」~社会との共生的な自我
 - ✓ Self-as-WEに根差した投資による「われわれ」を自覚した「よきしあわせ」



おわりに：「われわれ」の拡張と資産継承

1. 「委ねる」という投資の本質

- 資産として外化された自己の潜在能力は、投資という「委ね」のシステムを通じて他者の活動の源泉となることにより他者との関係が生まれる
- 資産と自己の循環関係から未来において再び自己に内化される（育む）
- 他者の範囲は、地理的・時間的に広範に拡張
- 未来世代に対して正の社会的効用を生むことも現在世代の努め
- 道徳的配慮 vs 客観的証拠/推論



2. 「気づかい」・「ケア」のアプローチへ

- 基準や目標という押し付けに代わる、相手を気づかう手探りの実践
- 現在世代は未来の世代に、一方的な影響を与えうる立場にある
- 現在世代には未来世代への責任（気づかい）を負う
 - ✓ 子や孫への相続
 - 心の「相続」は、他者や社会への態度や期待も継承されうる
 - 投資一任運用は、資産面にとどまらず資産形成の価値観を継承する

